



福島の「現状（いま）というタイミング」

山本 健治 (やまもと けんじ)

東北財務局 福島財務事務所 所長
福島市



○ 福島財務事務所の存在意義

昨今、様々な場面で、地域連携や地域貢献という言葉が使われる中、「財務事務所は自らの財務・金融行政という中で地域のために役立っているのか」、という存在意義を自問自答しながら、また、答えが一つではないと思いつつ、それぞれのタイミングで地域のために財務事務所として何ができるのかを考え、地道に地域に寄り添い、一緒になって答えを探していく日々の中にあります。

財務事務所における「地域」との関連という意味では、国有地の有効活用に向けた民間・地方公共団体との連携や地域経済の活性化・生産性の向上に繋がるための金融機関による金融仲介機能の十分な発揮についての議論を地域金融機関の皆様と行っている他、昨年の台風等の豪雨災害では、災害復旧事業等に対する地方公共団体への資金貸付、被害を受けた公共施設等への復旧事業費の決定に加え、被災者が適切な金融上の措置を受けるための実施に向けた金融機関への要請や地方公共

団体を介した被災者への無償での宿舍（住居）の提供等、様々な分野で地域に携わった業務を行っています。

また、その一方で、国の財政を預かる財務省の出先機関という独自の視点を加えた地域経済の情勢調査や地方公共団体の実地監査等、少し厳しい側面での業務も行っています。

○ 福島の現状（いま）

福島は今、高齢化社会が加速する中での人口減少、更には若者層の減少という日本全体が抱える課題の最先端にいても過言ではない現状の下、事業承継問題等の地域経済に大きな影響を与える課題も多く見受けられることから、地域の経済団体、関連団体、金融機関、また我々財務事務所を含めた行政面からも地域経済の活性化に向けた様々な取組を行っていますが、これらは特効薬ではなく、急激な変化を緩和する程度に留まるものであるのも事実です。

人口減少に伴う経済情勢の大きな指標の一つである個人消費の減少に伴う販売力の低下については、直接店舗に行かずネット購入する市場規模が拡大している現状からも見受けられるように、需要のあるモノの生産性が確保されれば、高い輸送技術や様々な輸送方法が確立されている現状下、供給先は福島でなく、利便性の高い身近な関東圏や都市圏、更には海外なども視野に入れることができるなど、楽観的なものかもしれませんが、福島の持ち前の誠実な気質と、市場動向の観察力や柔軟な発想の転換により販路は十分にひらかれると考えます。

しかし、首都圏をはじめとした県外への若者層の流出による労働力不足や人材不足は、地域企業の競争力の低下や企業が飛躍するチャンスを阻害するなど、地域経済全体にも悪影響を及ぼします。結果、賃金格差の拡大、サプライチェーン企業の撤退、地域経済の弱体化による魅力ある企業の衰退等、更なる悪循環を生み出し、若者層の県外流出が加速してしまっている気がします。

労働力不足だけを捉えれば、外国人労働者や他の地域からの労働力確保により対応は可能かもしれませんが、新たな発想力や柔軟性にたけている若者層の流出は、経済面だけでなく、様々な面で今後の地域を支えていく、地域の元気の源を失ってしまうことになります。

現状、震災復興に伴う補助金や交付金を活用した事業は、震災後のピークと比較すると減少しているものの、継続して公共事業は一定規模で行われており、また、新たな産業の発展に結びつく新技術の開発等に向けた研究分野も積極的に進められています。また、昨年台風等の豪雨災害に伴う復旧工事等をはじめとした事業規模を含めると、地方公共団体の予算面でみると震災後と比べても最大級の規模となっています。

つまり、高齢化、人口減少、若者層の流出が着

実に進んでいる一方で、これらの外的要因による経済の押上効果により、極端な地域経済の落込みなどが表面化していない現状がありますが、この外的要因がなくなってしまうと、地域経済自体の体力が完全に衰退化してしまっていた場合には、有効となる施策が乏しく、一気に落ち込んでしまう可能性があります。

○ 現状（いま）というタイミング

福島は、誠実な気質から培った経済界での信頼関係と高い技術力、また、豊かな自然環境と恵まれた農作物など、自分たちも気付いていない部分を含め、県外に伝わっていない魅力がたくさんあります。

このような中、福島にとっては忘れられない、風化をさせてはいけない震災の記憶と風評被害という面にも正面から向き合いながら、今、各方面において「福島の魅力を知ってもらう」とする行動が推し進められ、変化も目に見えるようになってきていますし、新たな産業の発展に向けた技術革新等への努力を民間主導ながら産学官金合同で盛り上げている現状など、明るい兆しが多く見受けられます。

現状の国や地方財政事情を踏まえると、この明るい兆しを更に推し進め、期間的な制約のある外的要因を受けている間（タイミング）に、今一度、福島の魅力を内外に認識させ、若者層を呼び込む、魅力のある地域企業の育成と活気のある地域づくりを行うことが、福島の未来に繋がる大きなカギになるものだと思っています。

私ども福島財務事務所におきましても、福島の若者層にとって魅力のある職場の一つとなることも含めて、引き続き、福島の地域に寄り添い、財務・金融行政を通じた福島の発展に寄与できるよう努めてまいります。